

フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会（第25期・第10回）
議事要旨

日時： 令和5年3月22日（火）15：00～16：50

会場： オンライン（Zoom）

出席：（分科会委員8名）鈴木康弘、谷口真人、日置光久、氷見山幸夫、山形俊男、小田宏
信、小林亮、丹羽淑博（事務局）齊藤美穂

議題

1) 分科会に関する国際的・国内的動向について

- ・日置委員より、2023年度に活動を開始する日本海洋教育学会について情報提供があった。
この学会では研究と教育との橋渡しを担うという理念の下、理事は研究者だけでなく、学校教育関係者、社会教育関係者も含んで構成されるようにし、会員募集では児童生徒のジュニア会員の枠を設けることになっている。
- ・氷見山委員長より、「私たちの身のまわりの環境地図作品展」の一環で昨年開催したオンラインのトークイベントについて情報提供があった。児童・生徒が自身の入賞作品の発表をただだけでなく、過去に入賞経験のある高校生や大学生等にコメンテーターを務めてもらったところ、非常に充実したものになったとの報告があった。
- ・山形委員より、民間企業も巻き込んで潤沢な資金の下、環境問題に取り組む米国の非営利団体 EarthX について紹介があり、当該団体が主催する気候適応に関する大規模な会議が今年4月に米国ダラスで開催されるとの情報提供があった。
- ・小林委員より、5月12日～17日にG7富山・金沢教育大臣会合が開催され、そこでユネスコ教育局長も参加してESD/SDGs教育の世界的推進が議題として取り上げられる予定との情報提供があった。

2) 小委員会の報告について

- ・氷見山委員長、小田委員、小林委員より、3月16日に開催されたESD/SDGsカリキュラム小委員会において以下に記すことが議論されたとの報告があった。
 - ・本年8月20日（日）に開催する予定の学術フォーラム「SDGsの達成に資するESDカリキュラムの開発」（以下、フォーラム）ではESD/SDGs教育の動向を初めて参加する方にも分かりやすく伝える必要がある。
 - ・フォーラムでは本年1月に開催した公開ワークショップ「持続可能な社会の創り手を

育てる学び～SDGs の達成に資するカリキュラムの開発に向けて～」の時よりも議論に十分に長い時間を取る必要がある。特に児童・生徒・学生が活発に議論に参加できるような工夫が不可欠である。そのための一案として、児童・生徒・学生にコメンテーターとして参加してもらえるとよい。ユースの参加促進はユネスコ ESD for 2030 の優先行動の一つにもなっており、国際的な方向性とも合致している。

- ・会場入口ホールにポスター発表スペースを設け、そこで学校教員や児童、生徒、学生から実践発表をしてもらえるとよい。

3) 8月20日(日)開催予定の学術フォーラムについて

- ・フォーラムについて以下のような意見交換を行った。
 - ・児童・生徒・学生のフォーラム参加は、研究現場だけでなく教育現場の知も活かすというフューチャー・アースの理念を明確に示すという観点からも大きな意義がある。最近小学生が発表する機会も多いので、小学生の参加も十分可能。
 - ・児童・生徒・学生の声を聞くのは非常に重要だが単なるポーズ(若者ウォッシュ)にならないように、その声をどこに届けるかを議論する必要がある。
 - ・上の世代の研究者と下の世代の若者とが一緒になって実施するというフレームづくりが必要。フォーラムの実施形式を決める際には、下の世代からボトムアップで提案してもらおうようにするとよい。
 - ・フォーラムでは、前述の米国 EarthX のような民間企業も巻き込んだ環境活動の国際的動向についても紹介できるとよい。
 - ・教育現場では教員から児童生徒へと一方向に伝えるのではなく、教員と児童生徒を双方向に結びつける ESD 教材コンテンツの作成が大きな課題となっている。フォーラムが教材作成のために研究者と教育現場をつなぐネットワークの一助になるとよい。
 - ・生物多様性、カーボンニュートラル等、それぞれのテーマの研究者コミュニティの中で個別に人材育成ワーキンググループが立ち上がっている。フォーラムではそれらワーキンググループを ESD の下に結び付けられるとよい。
 - ・児童・生徒・学生による実践発表もフォーラムのプログラムの中に入れられるとよい。旅費支給等の観点からも、プログラムの中に名前が入った方が児童・生徒・学生が参加・発表しやすくなる。
 - ・防災・復興教育も広い意味では ESD に含まれる。児童・生徒・学生自身から若者の観点から見た防災・復興に関する発表があってもよい。今回のフォーラムに含めるのが難しければ、次期の分科会のテーマになるとよい。

- ・フォーラムのプログラム等について以下の確認・議論を行った。
 - ・フォーラムは第1部「初等教育のカリキュラム開発」、第2部「中等教育のカリキュラム開発」、第3部「高等教育と教員研修のカリキュラム開発」の3部制で実施する。
 - ・児童・生徒・学生が数人コメンテーターとして参加する。各人からのコメントの時間をプログラムの中に入れる。コメントをプログラムの各部の後にそれぞれ行うか、フォーラムの最後にまとめて行うかは改めて検討する。
 - ・コメンテーターの時間を確保するため、各講演の時間は前回ワークショップよりも短くする。
 - ・児童・生徒・学生への学術会議からの旅費支給はできないが、所属校等より支給されることはあり得る。
 - ・児童・生徒・学生の実践発表をポスター発表の形式で行う。
 - ・児童・生徒・学生の実践発表者、コメンテーターとしての参加については、文科省が取りまとめている ESD/SDGs 教育関係のフォーラム、例えばユネスコ未来共創プラットフォームの協力を得られる可能性がある。
 - ・フューチャー・アース事務局、総合地球環境学研究所、ユネスコ・スクール関係等にも後援依頼をする。
 - ・その他、フォーラムの詳細は次回分科会（5月末開催予定）にて議論する。

4) その他

- ・特になし

以上